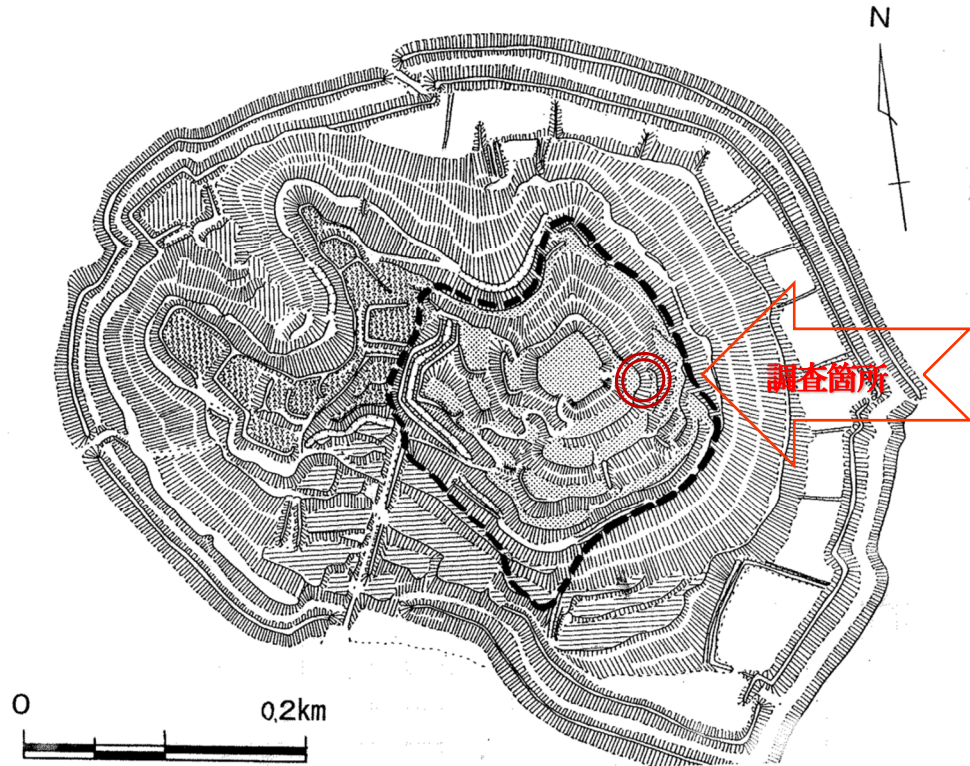


史跡小牧山主郭地区第3・4工区発掘調査 現地公開 資料

令和5年2月16日（木）～18日（土）

小牧山城縄張図
（破線の範囲が主郭地区）



春日井郡小牧村古城絵図（模写 部分拡大）
※十七世紀中頃 名古屋藩蓬左文庫所蔵



遺 跡 名

こまきやまじょう

小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約 200m²

調 査 期 間

令和4年10月～令和5年3月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

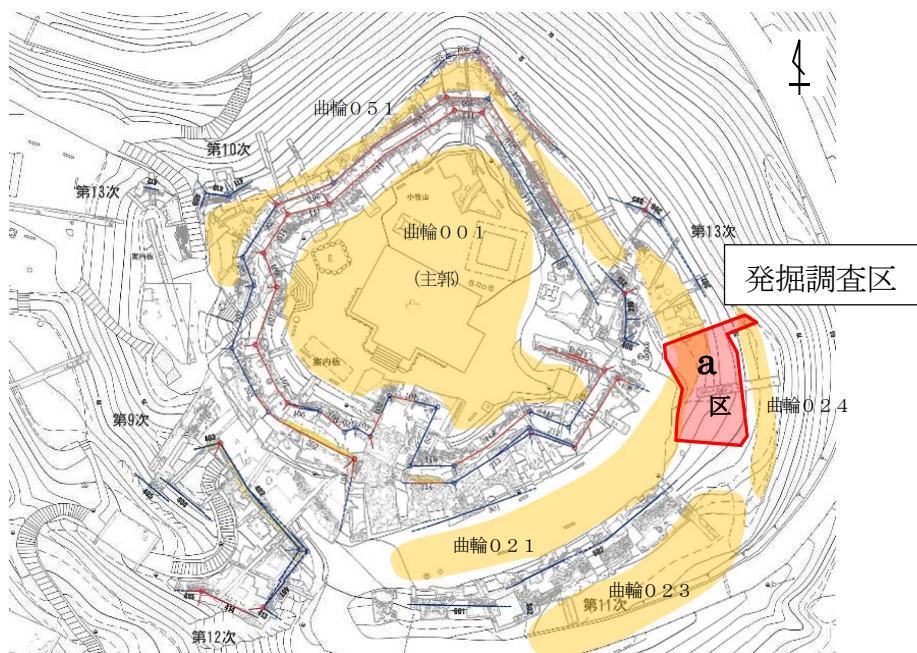


図1 調査位置（a区）

1 調査の概要

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は、史跡整備に伴う事前調査のため、4カ年の試掘調査と14カ年の発掘調査を経て、今年度が19年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年(1563)に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています（付表1）。

今年度は主郭（本丸）東側の曲輪と斜面に調査区（a区）を設定し、調査を行いました（図1）。

2 調査の目的

今回の調査区は、小牧山の主郭東側の曲輪021と曲輪024に位置します（図1～3）。周辺における第8次発掘調査（T区）では、石垣Ⅰ・Ⅱ、石垣Ⅰの前面に石組側溝や搦手門の礎石の可能性が考えられる石材、城道（搦手道）を確認しました。第13次発掘調査（Z区）では、石垣Ⅱとその前面に広がる玉石敷遺構や立石、石垣Ⅲを確認しました。（※主郭下の斜面に築かれた3段の石垣については、上から石垣Ⅰ、石垣Ⅱ、石垣Ⅲと呼称。）

今回の調査では、第8次発掘調査で見つかった城道の続きや第13次発掘調査で確認した石垣Ⅲの続き、曲輪021の規模などを明らかにすることを目的に調査を実施しました。

城道については、旧浄化槽の設置時における掘削の影響を受けていたことなどから、明らかにすることはできませんでした。その他の今回の調査で得られた成果は以下のとおりです。

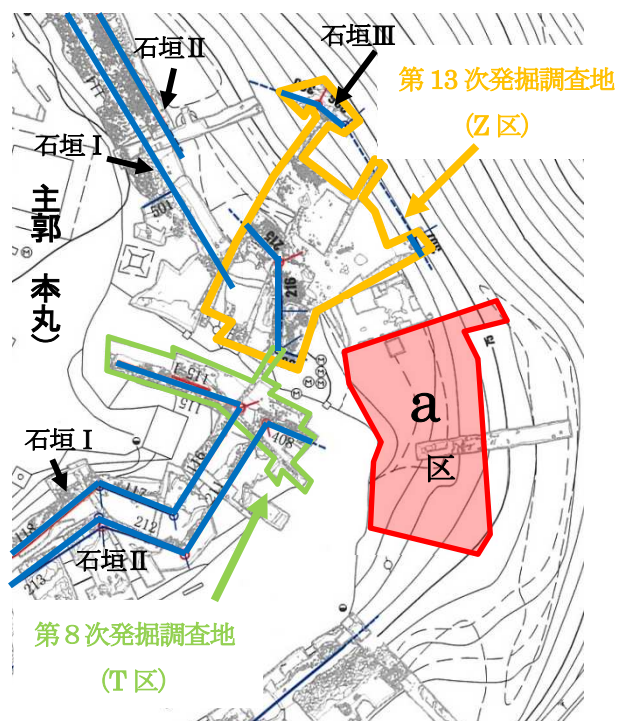


図2 周囲の発掘調査場所（T区・Z区）

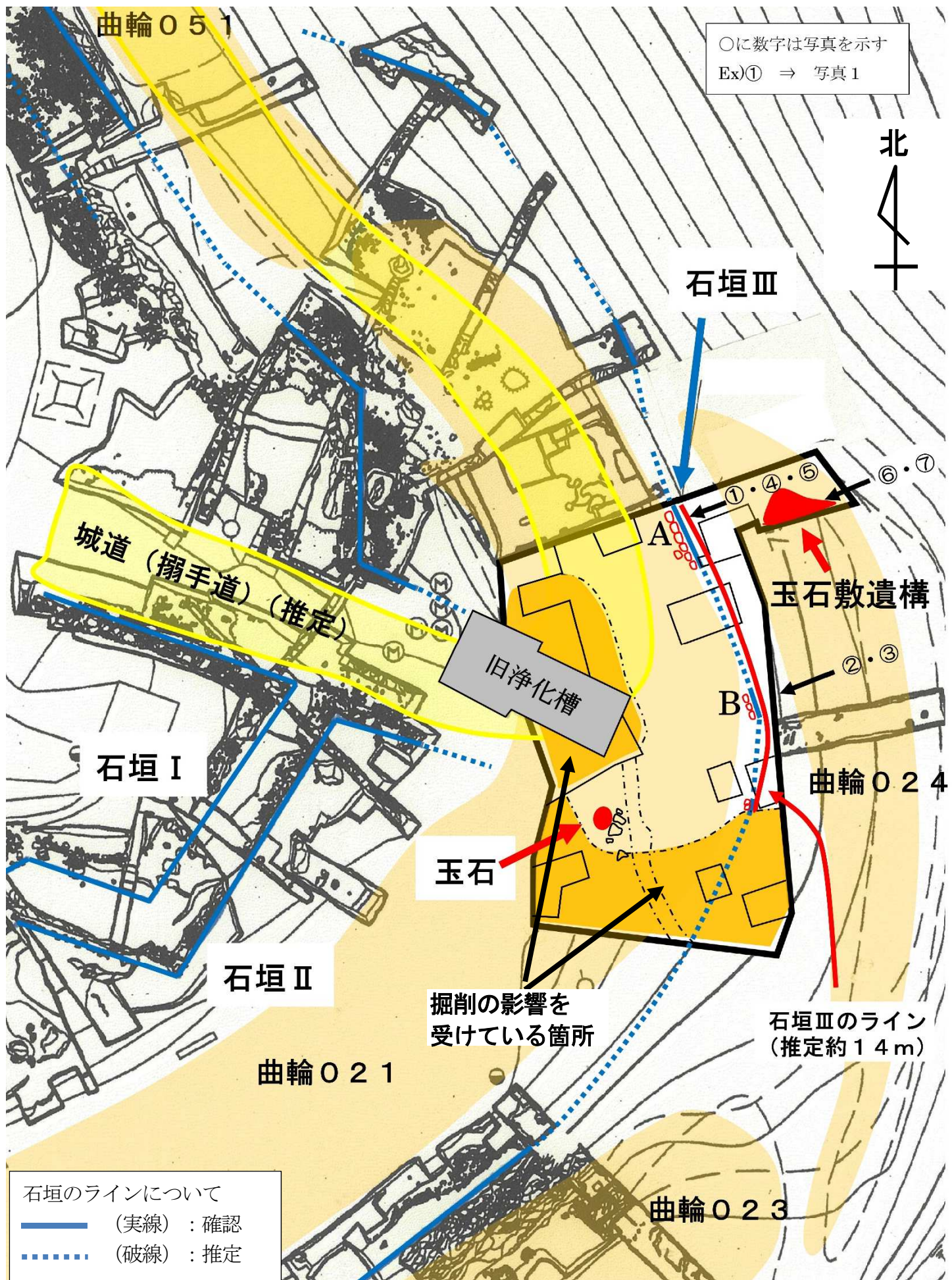


図3 調査区平面図

3 調査成果（何が見つかったのか）

①調査区東側斜面で石垣Ⅲを確認。そのプランと背面構造が明らかになりました。

1. 石垣の規模について

曲輪021と曲輪024の間の斜面において、石垣Ⅲを検出しました。石垣Ⅲは主に基底石が残存していました(写真1)。

今回確認した石垣Ⅲは南北方向に延びており、第13次発掘調査で確認した石垣Ⅲの続きと考えられます。石垣が残っていない箇所もありましたが、裏込石が一部残っている箇所や、石垣の背面構造として、曲輪面の造成土を確認したことから、石垣があったことが想定されます。今回の調査区で推定される石垣Ⅲの延長は約14mです。石垣Ⅲがどの方向に続いていくのかは、石垣の痕跡(築石や裏込石など)を十分に確認できなかったため、断定できませんでした。



写真1 石垣Ⅲ (図3内 A 部分)



写真2 石垣Ⅲ (図3内 B 部分)

2. 石垣の石材について

石垣石材は、横幅25～50cm、高さ20～25cm、奥行き30～45cm 程度の自然石(小牧山産堆積岩(チャート))です。一石ではありますが、やや風化した^{かこうがん}花崗岩が使用されていました(写真2)。花崗岩は小牧山には存在しないため、外部から搬入された石材と考えられます。この花崗岩の隣にある石材(写真2・3の★)は、北西から南東へ延びる石垣ラインの角度を南方向へ曲げるために、表面の形状を利用していると考えられます。



写真3 石垣石材を上から見た様子

3. 石垣の構造について

石垣の背面の構造を確認するため、トレンチ(土層観察用の調査溝)を掘削し、石垣の背面構造を記録しました。その結果、岩盤の上に、曲輪を構成するための土(造成土)が何層にも水平に積み重ねている様子を確認しました(写真4)。

また、曲輪面の造成土の中に、40cm 大の石材が据えられていることを確認しました。これは石垣の裏込石と曲輪の造成土を区画し、曲輪造成土の流出を防ぐために意図的に据えられた「土留石」と考えられます(写真5、図4)。この土留石は曲輪021の天端付近で確認しています。

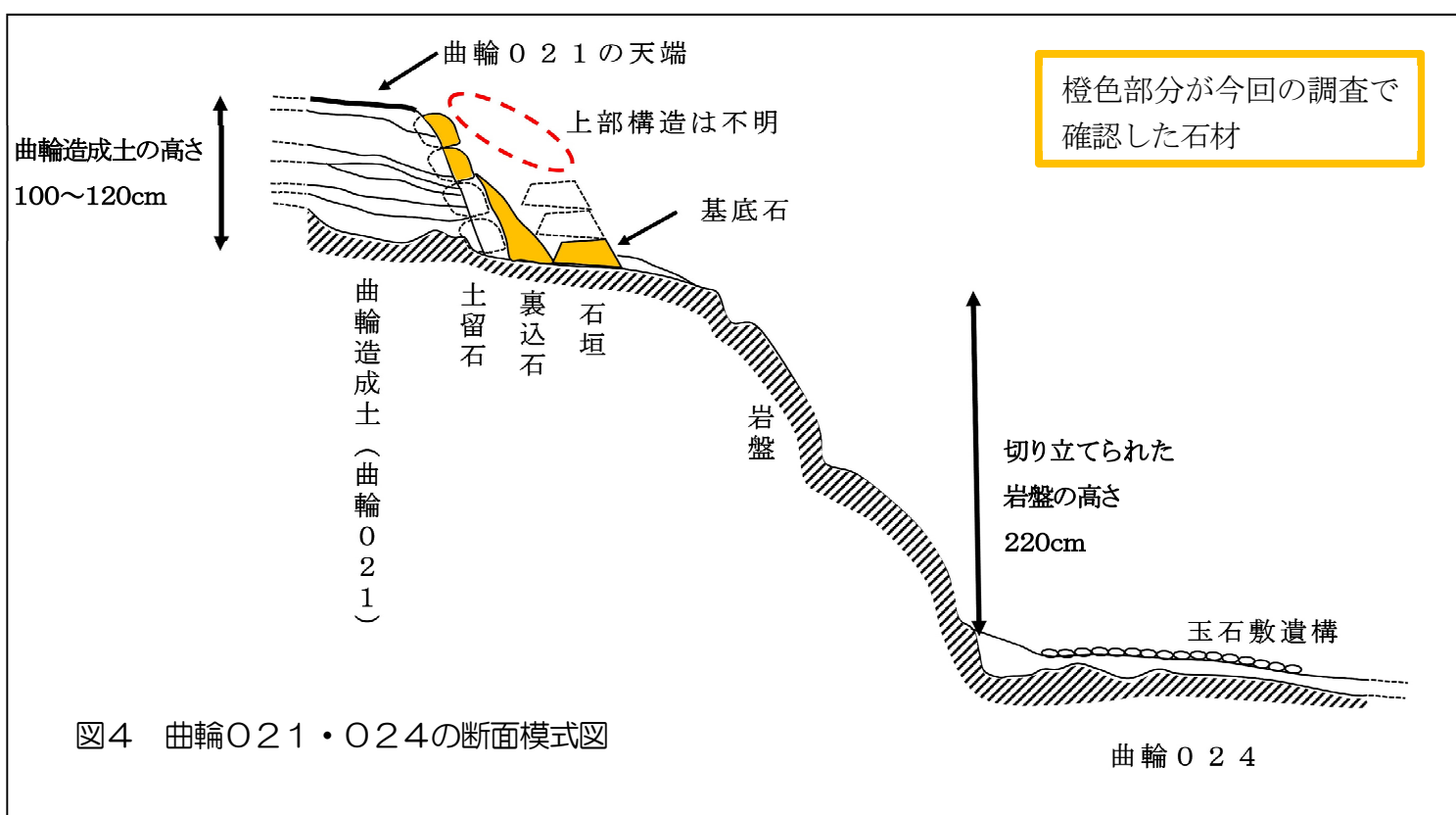


写真4 石垣背面の曲輪造成土の状況

いますが、石垣Ⅲでの土留石の検出例は今回がはじめてとなります。今回の調査の成果から、石垣を築くにあたって高い土木技術を会得した集団の関与をあらためてうかがうことができます。



写真5 土留石



②曲輪024で玉石敷遺構を確認しました。

曲輪024において、玉石敷遺構が見つかりました(図3・写真6)。玉石は、切りたてられた岩盤から約30～50cm離れたところに敷かれています(図4)。この玉石はさらに調査区外の南へ延びていく状況を確認しました。

玉石の大きさは主に10～15cm程度で、比較的平らな面を上に向けています。玉石は小牧山内で採取できるものではないため、ある一定の規格に沿って、外から持ち込まれたものと考えられます。

これまでに史跡小牧山主郭地区では3ヵ所で玉石敷遺構を確認しています。石垣Ⅱに接して検出された玉石敷遺構(第6次発掘調査)、礎石建物に伴う玉石敷遺構(第11次発掘調査)、玉石の敷設範囲内に立石があることから庭園に伴うと考えられる玉石敷遺構(13次発掘調査)です。

今回の調査では、玉石敷遺構の上に意識的に平らな面を上に向けた可能性のある石材が置かれていることも確認しました(写真7)。しかしながら、この石材についての性格は不明であり、また、玉石敷遺構は部分的にしか確認できなかったため、全容を明らかにすることはできず、今後さらなる調査と検討が必要です。

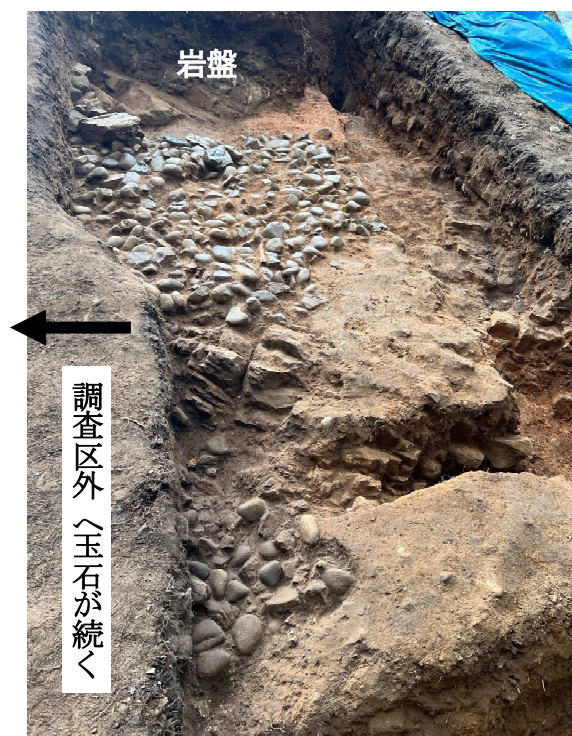


写真6 曲輪O24上の玉石敷遺構



写真7 平らな面を上にして置かれた可能性のある石材

付表1：これまでの主な調査成果

調査年	調査名	主な成果
平成17年(2004)	2次試掘	石垣が2段であることを確認
平成22年(2010)	3次発掘	墨書石垣石材出土
平成26年(2014)	7次発掘	3段目石垣を確認
平成28年(2016)	9次発掘	大手道で岩盤と石垣の壁面を確認
平成30年(2018)	11次発掘	「信長の館」の可能性のある建物跡を確認
令和元年(2019)	12次発掘	大手道で岩盤と石垣の壁面を確認
令和2年(2020)	13次発掘	石垣と庭の可能性のある玉石敷遺構を確認
令和3年(2021)	第2工区発掘	2段の石垣と人工的に切りたてた岩盤で構成される大手道の壁面を確認

付表2：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年(1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年(1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年(1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 織田・徳川連合軍は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長年間	名古屋城築城。小牧山城の石垣を持ち出しか？
		小牧山は尾張藩領となり、家康ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年(1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	6年(1873)	県立「小牧公園」として一般公開される。
	22年(1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年(1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年(1930)	徳川家から小牧町(当時)へ小牧山が寄付される。
	22年(1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年(1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年(1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年(2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年(2004)	主郭地区試掘調査開始(～平成20年まで：第1～4次調査)
	20年(2008)	主郭地区発掘調査開始(～令和3年まで：第1～13次調査、 第2工区調査)
	31年(2019)	小牧山城史跡情報館(れきしるこまき)オープン
令和 3年(2021)		主郭地区整備工事開始

付表3：織田信長天下統一への過程と城郭

年 代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年（1555）	22 歳	清須城入城	清須城 ：石垣なし	×
永禄 3年（1560）	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年（1563）	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年（1567）	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城：巨石石積	改修
天正 4年（1576）	43 歳	安土城築城開始	安土城 ：総石垣	○
天正10年（1582）	49 歳	本能寺の変		

史跡整備工事実施中です

小牧市では、市のシンボル「小牧山」の整備を進めています。

山頂一帯で、これまでの発掘調査成果を反映して、石垣の復元や園路の整備等を行います。工事は5か年に分けて実施する計画で、今年度は小牧市歴史館西側部分（右図参照）を整備します。工事期間中は山頂の一部が利用できなくなります。また、山の中を工事車両が往来します。

整備工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い致します。

小牧市教育委員会 小牧山課

